みやぎ版

購読申込先
NOSAI宮城
仙台市青葉区上杉
1丁目8番地10号
〒980－0011
電話022(225)6701
http://www.nosaimiyagi.or.jp/

謹賀新年

GAP認証経営体 取得を自信にますます発展

農産物の安全性が重要視されるなか、2020年に開かれる東京オリンピック・パラリンピックで食材の調達基準となるなど、GAP（農業生産工程管理）への関心が高まっている。新年号では、生産・労働環境の整備やマニュアルを設け、栽培管理を徹底してGAP認証を取得し、品質や収益、社員の自主性の向上を達成した4法人を特集する。

GAP（Good Agricultural Practice）

食品安全をはじめとする環境保全、労働安全、人権保護、農場経営管理に関して生産工程を明確化し、持続可能な農業を目指す取り組みのこと。世界各地に適合基準を設けたGAPが存在し、第三者機関から当該GAPが正しく実施されていることが認められると、目に見えない価値が客観的に証明され、信頼の高い生産品として取引が容易になる。

▼グローバルGAP＝欧州圏を主体に普及する国際基準のGAP。

▼ASIAGAPとJGAP＝一般社団法人「日本GAP協会」が運営主体となって策定するGAP認証のこと。

大崎市古川 ㈱てくてくファーム　野菜6品目

佐藤雅俊代表取締役・36歳

「一歩一歩着実に」と社名に込めた思いのとおり、適正な管理を心掛ける佐藤代表取締役

従業員の意識変化 環境改善に積極的

栽培品目と規模は　個人経営から2013（平成25）年に法人化し、ハウス90㌃と露地60㌃でナス、レタス、トマト、ブロッコリー、カリフラワー、ホウレンソウを栽培しています。17（平成29）年にJGAPの認証を取得しました。

きっかけは　法人化によって増えた従業員の管理が難しくなったことをきっかけに、会社経営の基盤づくりとして全員が一つのルールに沿って仕事に取り組む体制をつくるため、JGAPが適していると感じたからです。

取り組みのポイントは　普及センターの支援や、国の補助事業を活用してコンサルタントを依頼したことで、スムーズな認証の取得につながったと思います。衛生面や農薬の管理など基本的なことから改善を図ることが大切だと痛感しました。

メリットは　認証から1年たち、従業員の意識が変わって、生産や施設管理に関する意見が出るようになりましたね。認証されることが信用の形として表れるので、市場の取引先から「安心して購入できる」と言ってもらえました。

今後の展望は　消費者に胸を張ってJGAP認証をPRできるような管理を続けて、ASIAGAPの取得も視野に入れています。

（大友）

栗原市 ㈲川口グリーンセンター　水稲

白鳥正文代表取締役・59歳

生産工程の記録を収益向上につなぐ

「労働安全や施設内の整理整頓意識が高まった」と白鳥代表取締役

栽培品目と規模は　水稲64㌶を作付けする他、花きの栽培や米粉パンの製造など多岐にわたっています。2017（平成29）年に市内で初となる水稲のJGAP認証を取得しました。

きっかけは　15（平成27）年に県の「大規模経営体育成支援事業」の指定を受けて、生産性や労働力を数値化する農業生産管理システムを導入しました。コスト削減を目指して取り組んだ結果、農場内が整理され、このことをきっかけにGAP認証を視野に入れるようになりました。

取り組みのポイントは　リスク評価のマニュアルとチェックリストを一から作成することに苦労しました。適合基準を整理し、全従業員が生産工程を理解した上で継続して取り組めるものを作成しました。

メリットは　米の収穫から販売までの生産工程を加工も含めて管理し、記録を残すことで次年度以降の経営改善に役立て、収益の向上に努めています。

今後の展望は　農場管理を社内全体で行い、若手を含めた社員の意識が変わることで、後継者の育成につなげたいです。認証を自信に地域を活気づける存在になれればと思います。

（及川愛）

手順や使用のルールが見える化された農薬保管庫

松島町 ㈲サンフレッシュ松島　トマト

内海孝則取締役兼農場長・27歳

▲「規模拡大を視野に入れている」と意欲的な内海農場長。温室は衛生面を考慮し、整備されている▼

栽培品目と規模は　1㍍のダッチライト型ガラス温室で、大玉と中玉トマトと3品種のミニトマトを手掛けています。栽培環境に配慮した養液栽培システムを導入し、栽培しています。

きっかけは　東京オリンピック・パラリンピックに向けて国際基準に合った食材が必要となることを知り、新しい経営企画に取り入れることを決めました。全農みやぎをはじめとするJAグループの協力があって、昨年、法人単独では難しいグローバルGAPの団体認証を取得することができました。

取り組みのポイントは　施設内は衛生面に配慮し、各生産工程を区別するため間仕切りを備えた他、足りない設備は新設して取り組みました。また、導入するトマトの種子や苗の履歴、収穫後の販路に至る詳細なデータの管理を徹底しました。

メリットは　生産環境の整理や栽培管理のポイントをまとめたことで、生産性の向上と、経験や勘に頼らない安定した品質のトマト生産ができています。

今後の展望は　規模拡大を視野に入れています。グローバルGAPを掲げて、農産物の安全・安心を国内外にPRできることで、販路の開拓に期待しています。

（櫻井）

国内外への販路拡大に期待

▶ＪＡ全農みやぎは昨年、グローバルＧＡＰの団体認証を取得。参加したのはサンフレッシュ松島、やまもとファームみらい野など３法人

生産工程に沿って作業する従業員

山元町 ㈱やまもとファームみらい野　トマト

関英勝園芸部長・46歳

栽培品目と規模は　鉄骨ハウス63㌃で大玉トマトを、露地110㌃でネギなどの野菜を栽培しています。トマトの出荷量は1日に平均1・5㌧。昨年は10㌃当たり50㌧の収穫を上げました。

きっかけは　東京オリンピック・パラリンピックの開催を契機に進む、食の国際基準化に対応することが認証取得の大きな要因です。私たちの生産スタイルや社内ルールにGAPを落とし込むことで、分かりやすく整理されるのではないかと考えました。

取り組みのポイントは　普段から何気なく行っている作業も、何を基に決めているか、基準を検証して裏付けを示すことが必要でした。従業員一人一人ができるようになるまで徹底して教育訓練をしました。

メリットは　何事も記録を残すのでその後の管理の漏れが無くなり、リスクを回避できることが最大のメリットです。機械器具の点検も記録を残し、農繁期などのトラブルを最小限に抑えることができています。

今後の展望は　大震災後に地元の期待を受けてできた法人なので、これからも労働環境を整えて雇用を創出し、農業を盛り上げ、地元農家の励みになるような存在になりたいです。

（高橋康）

労働環境を整え雇用創出